

## 会社説明会における主な質疑応答

- Q. 現状の実力利益はどの程度の水準と認識しているか。
- A. 送配電事業の利益上振れ等の一過性要因を差し引くと、経常利益の実力値は400億円台の半ば程度と認識。これまでは、一過性要因等を差し引くと400億円を若干下回る水準という認識であったが、今年度上期の状況が今後も継続する場合は、現行中計の目標であるROE8%や経常利益400億円は超えてくるものと考えている。一方、下期にも様々な変動要因が影響を及ぼす可能性があることから、引き続き気を緩めることなく、事業環境に注意しながら、中計目標の達成をしっかりと目指しつつ、その先の展望についても次期中計の中で考えていきたい。
- Q. 現行中計の目標達成の前倒しもあり得る現状において、2025年度早々に次期中計を打ち出すことも考えられるが、いかがか。
- A. 次期中計の検討においては、将来の姿を想定しながらバックキャストで何をやるべきかといった議論や、どういった経営指標を設定しそれをどう達成するかという議論に加え、人材採用が困難化するなか、DX等の効率化も踏まえた上で限られた人材でどう事業を進めるか、期待する事業領域にどう配置していくかという議論など、多岐にわたる検討を始めているところである。また、こうした内容を、当社およびグループ会社の社員をはじめとして、社外取締役など様々な立場の方と議論しながら、一つずつステップを踏んだ上で全体像を整理する必要があり、なるべく早くお知らせしたいと思うものの、2025年度早々というよりはもう少し時間をいただきたい。
- Q. 現行中計の目標に対する進捗率が高く、利益面や自己資本比率について目標達成の前倒しも考えられるなか、配当について今期40円に据え置いた理由を説明いただきたい。
- A. 今期の利益水準は中計目標である経常利益400億円を超える見通しであるものの、実力ベースで評価すると目標水準を大幅に上回るころまでには至っていないと認識していることや、自己資本比率が完全には目標を達成できていないという点などを踏まえ、各ステークホルダーへの配分のバランスを議論した上で、今期は据え置くこととした。
- Q. 次期中計において、ROEを経営指標としてどのように位置付けるつもりか。
- A. 次期中計の議論において、経営指標に関する検討は途上であるが、ROEを重要な指標として位置付けることは当然必要と考えており、ステークホルダーの期待や東証要請も踏まえながら、しっかりと検討したい。

以 上